

出題のねらい

英語の基礎力を正確に習得できているだけでなく、その基礎力を日常生活やアカデミックなシーンにおいて実際に運用できるかを試すことが出題のねらいです。

大問Ⅰは、文法、語法と語彙の基本知識の定着をみています。大問Ⅱは、英語の多様性について述べていますが、空所を埋める適当な表現を見つけるためには、文脈を正確に理解するとともに、文法や語法の知識も必要になります。大問Ⅲは対話の問題です。2人が大学卒業後にギャップ・イヤーを活用してどんな経験をしたかについて語り合っています。空所の前後から自然な会話の流れを理解するコミュニケーション能力が要求されます。

【Ⅰ】

【解答】 (30点)

1	①	2	④	3	③	4	②	5	④
6	①	7	④	8	①	9	②	10	③
11	③	12	④	13	③	14	①	15	③

(各2点×15)

【解説】

- 慣用的な表現の問題です。
- 比較の表現の問題です。文意から適切な表現を選びます。
- 関係詞の問題です。in が文尾にあるので関係代名詞を選びます。
- 時制の問題です。in 2010 から、過去形を選びます。
- 仮定法の問題です。If 節のなかの got に注目します。「君があのような有名な会社に就職したとしても私は驚かないね」
- 動詞 remain の用法の問題です。
- 接続詞の問題です。文意から逆接の表現を選びます。
- イディオムの問題です。文意から適切な表現を選びます。
- There から始まる構文表現の問題です。
- イディオムの問題です。文意から適切な表現を選びます。
- ことわざの問題です。mighty の比較級は mightier です。
- 前置詞の問題です。動詞 leave との組み合わせから選択します。leave for ～で ～に向けて出発するの意味です。
- almost の語法の問題です。
- 語彙の問題です。文意から適切な表現を選びま

す。

- (15) neither A nor BでAもBも(…し)ないの意味になります。

【Ⅱ】

【大意】

もし英語を学びたいなら、最上の方法は英語を話す国に行き暮らすことである。もっとも人気がある国は英国、米国、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドである。それらの国々は基本的に同じ種類の英語を使っており、現代メディアの影響で、それぞれの国の語彙の違い、アクセントの違い、表現の違いを人々は認識している。その結果、異なる国民の間でコミュニケーション上の問題はほとんどない。事実、英国で作った映画や米国で作った映画を観ていると、米国の映画で英国の俳優が米国人を演じていたり、英国の映画で米国の俳優が英国人を演じていたりするのはよくあることである。俳優たちは説得力があるように自身のアクセントを変え、どんな種類の米国アクセント、あるいはどんな種類の英国アクセントを使うのか決めなければならない。米国では地域によってアクセントは様々であろう。ニューヨークにはブルックリン・アクセントの強い鼻音がある。政界でもっともよく知られたこのアクセントの話し手は、おそらくバーニー・サンダースである。そしてたとえば、米国の元大統領ビル・クリントンの南部アクセントがある。彼のアーカンソー・アクセントは、彼の妻ヒラリーのより標準的な米国アクセントとは異なっている。古い国である英国もまた多様なアクセントをもつ。英国には有名な Queen's English があるが、これは女王を別にすれば、文字通りごく少数の高齢の貴族によって話されている。女王の孫、ウィリアムとハリーさえも祖母の女王と同じような話し方はしない。かつてBBC テレビの標準アクセントであったものが、今はもはやあまり多くなく、BBC の主要なニュースキャスターのひとり、イングランドの西隣の国ウェールズに由来する穏やかなウェールズ・アクセントで話している。

【解答】 (20点)

16	⑥	17	③	18	⑥	19	②	20	④
21	⑨	22	①	23	⑧	24	⑤	25	⑦

(各2点×10)

【解説】

英語のアクセントの多様性について書かれたエッセイです。難易度の高い語彙は使われていませんので、空所の前後の単語に注意しながら、まず入るべき品詞を確認します。そして、文脈から意味を捉えて読み進めると解答を見つけることができます。

## 一般入試／英語(中期)

---

【Ⅲ】

【解答】 (18点)

26	⑥	27	⑨	28	①
29	③	30	⑧	31	⑦

(各3点×6)

【解説】

ビルがメアりに、大学卒業後、就職前にギャップ・イヤー（高校や大学を卒業してから進学や就職までの期間のこと。英語圏では、その間、大学では得られない経験をすることを推奨されている。）を取りたいと話すところから、ふたりの会話が始まります。アシスタント・ティーチャーとして日本の学校で英語の授業の手助けをする話へと展開していきます。対話文は情報のやりとりになりますから、話の展開に注意してください。

【Ⅳ】

長文に関する著作権の承諾を得ることができず、問題を掲載しておりませんので、【大意】、【解答】、【解説】についても掲載しておりません。

なお、配点は [32点] です。